

# 新型トレーラー「+1α」導入

## 平野ロジスティクス 車両側面部から搭載可能に

平野ロジスティクス(本社=神戸市、田中英治社長)が開発を進めてきたセミトレーラー車「+1α」(プラットフォーム・アルファ)の運行が3月10日をめどに開始される。従来の「+1」と比べて積載量・容積が増しているとともに、車両側面部からの貨物搭載が可能だ。半導体製造装置やフレーターに搭載する大型・背高貨物などの輸送に威力を発揮する。平野ロジスティクスの益子研一営業部長兼関東支店長は「まずは3台を導入して、お客さまからの要望、改良点を検証して増車を検討したい」と説明する。

## 半導体装置など大型貨物に対応



益子研一 部長

「+1」は、従来の大型トラックに比べて96センチのULDを1枚多く搭載できることが特色だ。トレーラーの車軸は1軸であるため、高速道路料金は大型車と同じ料金が適用される。車両1台でより多くのULDを搭載でき、かつコスト面を追求した仕様となった。



新開発の「+1α」



「+1α」の内部

いる。長距離の空港間転送などにその強みを発揮している。従来の「+1」の貨物搭載スペースの内寸は幅244センチ/長さ1280センチ/高さ268センチ/300センチ。搭載可能な貨物重量は「+1」の10トに対して「+1α」は26トに増す。「+1α」は、搭載貨物の重量によって車軸を1軸あるいは三軸に変化させられる。三軸の場合は高速道路で特大車の料金だが、1軸の時は大型車の料金。貨物の搭載重量によっては、大型車の高速料金で運行できるなど、柔軟性、汎用性を高めている。

こうした貨物の搭載重量・容積、高速料金の観点とともに、車両側面部からの貨物搭載を可能としていることが大きな特色だ。「+1」はトレーラー後方部分から縦列で貨物を搬入するが、「+1α」は欧州で使用されているターボリンシート

によるカーテン方式を採用している。

「+1α」のトレーラー部分の長さは、仮にウイング構造で製造する場合には、強度補強のための装備が必要になり、貨物スペースが制限される。大型貨物に対応するための搭載スペースを確保するとともに、車両側面部からの貨物搭載を可能にするための「解が、今回のターボリンシートによるカーテン方式の採用だった。

益子部長は「例えば、平ボダイに半導体製造装置などの大型・背高の精密機械を積載する時には、複数のシートを貨物にかぶせる形で濡損事故を防ぐ。ドライバーが同作業を行う際には、高所での作業になることに加え、シート1枚当たりの重量は数十キに及び、労働負荷・安全性の観点からも課題がある。こうした課題を解決し、かつ濡損事故などを未然に防止できる仕様となっていることが「+1α」の強みでもある」と説明。「一貨物やドライバーストにもやさしい車両と認識している」と話す。

平野ロジスティクスは物流効率化、それによる環境

負荷低減の観点などから最新鋭のオリジナル・トレーラーの導入を進めてきた。「+1」以外にも、大型トラックよりLD3コンテナ換算で7台多く搭載できるセミトレーラー車「+7」(計13台搭載可能)、また「+7」に改良を加えて同8台多く搭載できる「+8」(同14台搭載可能)、96センチのULDを5台搭載できるフルトレーラー車「+2」を導入済み。「+7」は1台、「+8」は1台、「+2」は2台を運行中だ。「+1」は現在12台を運行しており、さらに3台を発注済み。3月に13台目の「+1」導入を計画している。これらオリジナル・トレーラーのラインナップに新たに「+1α」が加わる

## きょうの紙面

羽田空港  
2面 住民理解へ説明強める

那覇港・総物流センター運営事業  
3面 琉球海運らが優先交渉権獲得

資料 JAJA日本発航空輸出混載全仕向け地別・  
4面 日本着航空輸入件数主要通関場所別推移(12月)

6面 郵船ロジ、星港で  
食品輸入の一貫サービス

## エアバス A350-1000型機

エアバスは26日、広胴機の最新機種であるA350-1000型機=写真=で中東およびアジア太平洋地域へのデモ飛行ツアーを開始したと発表した。ドーハ、マスカット、香港、ソウル、台北、ハノイ、シンガポール、バンコク、シドニー、オークランド、東京(羽田)、マニラと、3週間かけて5万5500キロ以上飛行する。現時点で、羽田に



## 来月、羽田にデモ飛行

来月14日深夜に到着し、同日夕方以降に出発する予定。

A350-1000型機はA350-900型機よりも胴体が約7センチ長く、旅客・貨物輸送能力が拡大している。A350-1000型機のローアデッキの貨物輸送能力は、LD3型コンテナで44台(A350-900型機では36台)、パレットで14枚(11枚)。A350-1000型機のバルク・スペース(両機種ともに11.3立方メートル)を含む貨物室容積は208.2立方メートル。

(A350-900型機が172.4立方メートル)。A350-1000型機にはロールス・ロイス製トレントXWB-97エンジンを装備。飛行試験機は現在、合計3機。一連の飛行テストを1年未満で完了し、すでに欧州航空安全庁(EASA)および米連邦航空局(FAA)から型式証明を取得している。現在までに11社からA350-100型機合計169機の受注があり、初号機はカタール航空に納入する予定。

形だ。こうしたトレーラーの製作はオランダ・ユトレヒトに本社を置くECK社。 「+1」「+1α」「+7」

「+8」のヘッドおよび「+2」をけん引するトラックはスウェーデンのスカニア製。ヘッドは現在、16台ある。

国際空港上屋(IACT) 医薬品の保管需要の高まり

## 国際空港上屋

## 完成 催



新上屋は成田空港

完成した新上屋内を見学する関係者